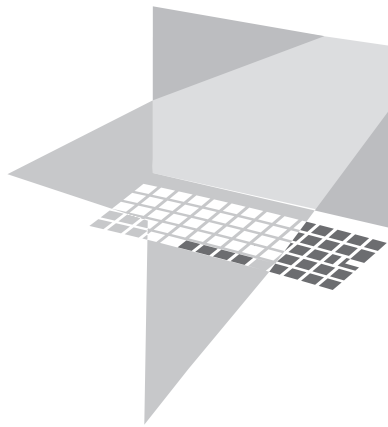


第3章

ICT全般に関する 意識と実態

朝永 昌孝 (1～3節)

木村 治生 (4～6節)



テレビゲームに関する意識と実態

学校段階別にみると小学生、性別にみると男子にテレビゲームの人気の高い。また、成績上位層のほうが親とゲームのしかたについてルールを決めている割合は高い。

1980年代以降、家庭へと急速に普及していったテレビゲームは、瞬く間に子どもの心をつかんで生活の中へと浸透し、折にふれて社会的な関心の的ともなってきた。現在は、家庭用の据え置き型のテレビゲーム機やパソコンでのゲームのみならず、携帯ゲーム機や、携帯電話で行うゲームなどもあり、さまざまな時間や場所で遊ぶことができる。

子どもたちはテレビゲームに対して、どのような意識をもっているのだろうか。本節では「テレビゲーム（携帯ゲーム機、パソコン、携帯電話でのゲームを含む）について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか」とたずねた結果をみていく。なお、テレビゲームをどれくらいしているかについては、第4章第1節で日ごろの生活時間を分析するなかで示す。

◆ テレビゲームはとくに小学生に人気

図3-1-1は、テレビゲームに関する意識と実態について、学校段階別にみたものである。「ゲームをするのが好きだ」ということに「あてはまる」（「とてもあてはまる」＋「まああてはまる」の％、以下同）と回答した割合は、小学生76.4％、中学生69.5％、高校生65.2％であった。全体的にみて、多くの子どもが、テレビゲームを好きであることがわかるが、その割合は学校段階があがるにつれて減少する。また、「もっとゲームをする時間がほしい」という回答も、小学生37.4％、中学生33.4％、高校生30.6％と、学校段階があがるにつれ減少している。テレビゲームはと

くに小学生に人気の高いと言えるだろう。

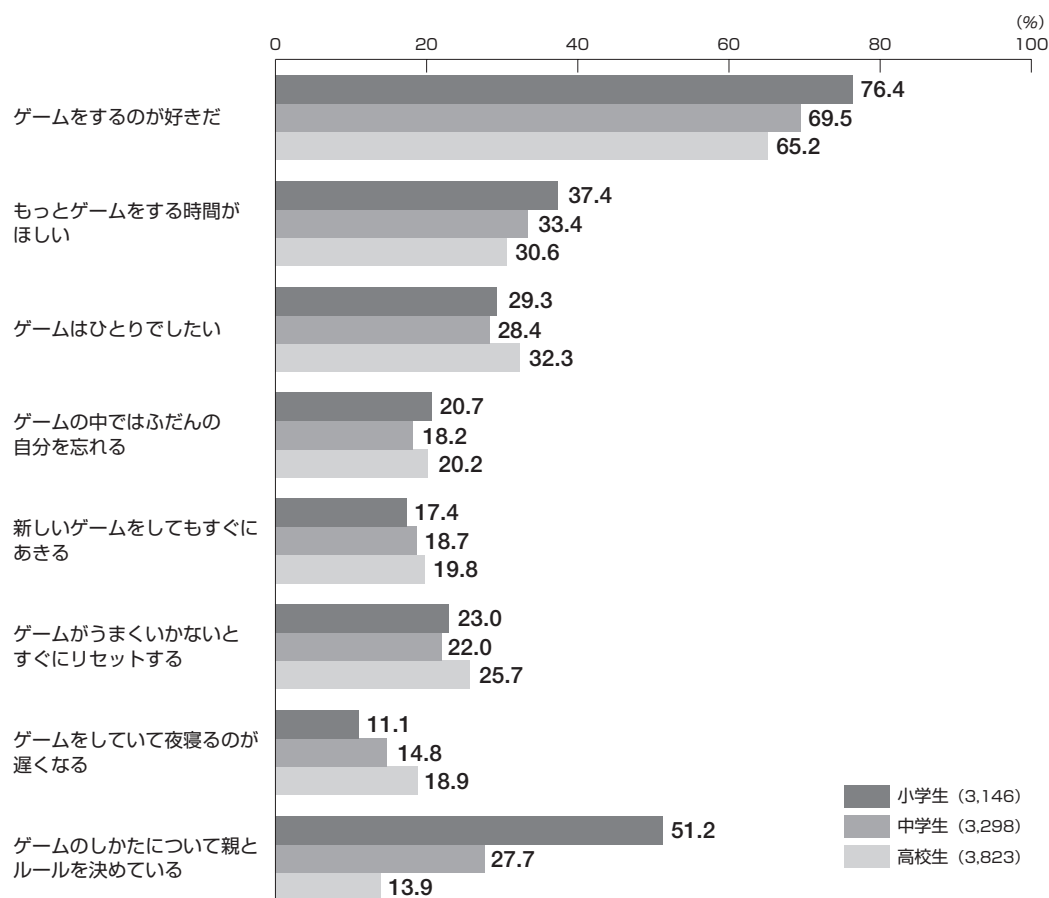
◆ 親とルールを決めている小学生は5割

では、親はどれくらい子どもにかかわっているのだろうか。「ゲームのしかたについて親とルールを決めている」をみると、小学生では51.2％が「あてはまる」と回答している。一方、中・高校生になると、中学生で27.7％、高校生で13.9％と減少する。小・中・高校生では発達段階が異なり、子どもの自律性の程度や、日ごろゲームを行う頻度自体が異なることも背景として考えられるが、実態として親の関与の程度やしかたが変わることは確かである。

◆ テレビゲームが好きな男子

次に、学校段階ごとの性別に分けて示したものが、表3-1-1である。これによると、多くの項目で女子よりも男子のほうが「あてはまる」と回答した割合が高い。「ゲームをするのが好きだ」や「もっとゲームをする時間がほしい」は、学校段階を問わず、女子より男子のほうが「あてはまる」という回答が15ポイント以上も多い。また、「ゲームをするのが好きだ」について、女子は学校段階があがると「あてはまる」という回答が大きく減少するのに対して、男子は8割台とほとんど変わらないことが目をひく。「ゲームをしていて夜寝るのが遅くなる」のも、女子よりも男子のほうが多く、総じて男子のほうが、テレビゲーム好きである様子がうかがえる。

図3-1-1 テレビゲームについての意識と実態（学校段階別）



注1) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

注2) () 内はサンプル数。

表3-1-1 テレビゲームについての意識と実態（学校段階別／性別）

	小学生		中学生		高校生	
	男子 (1,581)	女子 (1,553)	男子 (1,686)	女子 (1,597)	男子 (1,720)	女子 (2,072)
ゲームをするのが好きだ	84.4	68.1	81.9	56.5	82.0	51.4
もっとゲームをする時間がほしい	48.0	26.6	43.5	22.8	43.3	20.0
ゲームはひとりでいたい	29.0	29.6	27.8	29.0	36.7	28.7
ゲームの中ではふだんの自分を忘れる	25.2	16.2	20.4	15.9	24.2	16.9
新しいゲームをしてもすぐにあきる	15.6	19.2	18.2	19.3	23.3	16.6
ゲームがうまくいかないとすぐにリセットする	24.2	21.8	21.0	23.1	26.2	25.0
ゲームをしていて夜寝るのが遅くなる	14.8	7.1	19.0	10.7	25.8	13.0
ゲームのしかたについて親とルールを決めている	53.5	48.9	30.6	24.7	15.9	12.3

注1) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

注2) «»は10ポイント以上、<>は5ポイント以上の差があることを示す。

注3) () 内はサンプル数。

◆ 成績上位層のほうが 親とルールを決めている

学校段階ごとの成績・高校偏差値層別に、テレビゲームに関する意識と実態の違いをみたものが表3-1-2である。これによると、「ゲームをするのが好きだ」という思いは、学校段階を問わず、成績や高校偏差値層による違いがほとんどみられない。ゲームが好きだという感覚は今の子どもたちに共通しているといえそうだ。ただし、「もっとゲームをする時間がほしい」という思いをもっているのは、小・中学生では成績下位層で多いが、高校生では進路多様校よりも進学校や中堅校の生徒のほうが多いという違いがみられた。

「ゲームのしかたについて親とルールを決めている」については、成績・高校偏差値層による違いがみられる。「あてはまる」という回答は、たとえば小学生では成績上位層58.5%、中位層51.7%、下位層43.7%と、それぞれ5ポイント以上の差がついている。「ゲームが好き」という感覚にはあまり違いがなくても、親のかかわり方には違いがあるといえ

そうだ。また、小学生の成績下位層では「ゲームの中ではふだんの自分を忘れる」「ゲームがうまくいかないとすぐにリセットする」「ゲームをしていて夜寝るのが遅くなる」といった回答が多いことは目をひく。

◆ テレビゲームの時間に比例して ゲーム世界に没頭

最後に、ゲームへの親和性が高いと思われる小学生について、平日のテレビゲーム時間との関連をみたものが図3-1-2である(平日のテレビゲーム時間については、第4章第1節参照)。

これによると、「ゲームをするのが好きだ」「もっとゲームをする時間がほしい」「ゲームはひとりでしたい」「ゲームの中ではふだんの自分を忘れる」「ゲームがうまくいかないとすぐにリセットする」など、多くの項目でテレビゲーム時間の長さに比例して「あてはまる」という回答が多くなっており、テレビゲームに没頭している様子がかがえる。

「ゲームをしていて夜寝るのが遅くなる」

表3-1-2 テレビゲームについての意識と実態(学校段階別/成績・高校偏差値層別)

	小学生			中学生			高校生		
	上位 (862)	中位 (1,233)	下位 (927)	上位 (1,127)	中位 (889)	下位 (1,203)	進学校 (928)	中堅校 (1,802)	進路多様校 (1,093)
ゲームをするのが好きだ	73.9	77.7	77.1	70.1	67.9	70.2	67.5	65.7	62.4
もっとゲームをする時間がほしい	33.0	35.5	< 43.1	30.9	30.3	< 37.9	37.0	> 31.1	> 24.5
ゲームはひとりでしたい	28.5	28.2	32.0	26.8	27.0	31.4	35.4	33.6	> 27.6
ゲームの中ではふだんの自分を忘れる	17.6	19.1	< 25.8	16.2	17.9	19.9	23.4	20.9	16.4
新しいゲームをしてもすぐにあきる	15.1	16.7	20.5	16.5	17.7	21.5	21.3	17.5	22.2
ゲームがうまくいかないとすぐにリセットする	20.1	21.9	< 27.2	20.5	20.4	24.6	24.8	25.8	26.2
ゲームをしていて夜寝るのが遅くなる	6.3	10.0	< 17.2	11.6	14.2	18.6	18.7	17.6	20.8
ゲームのしかたについて親とルールを決めている	58.5	> 51.7	> 43.7	33.5	> 25.9	23.8	19.9	> 14.0	> 8.7

注1) 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

注2) «>は10ポイント以上、<>は5ポイント以上の差があることを示す。

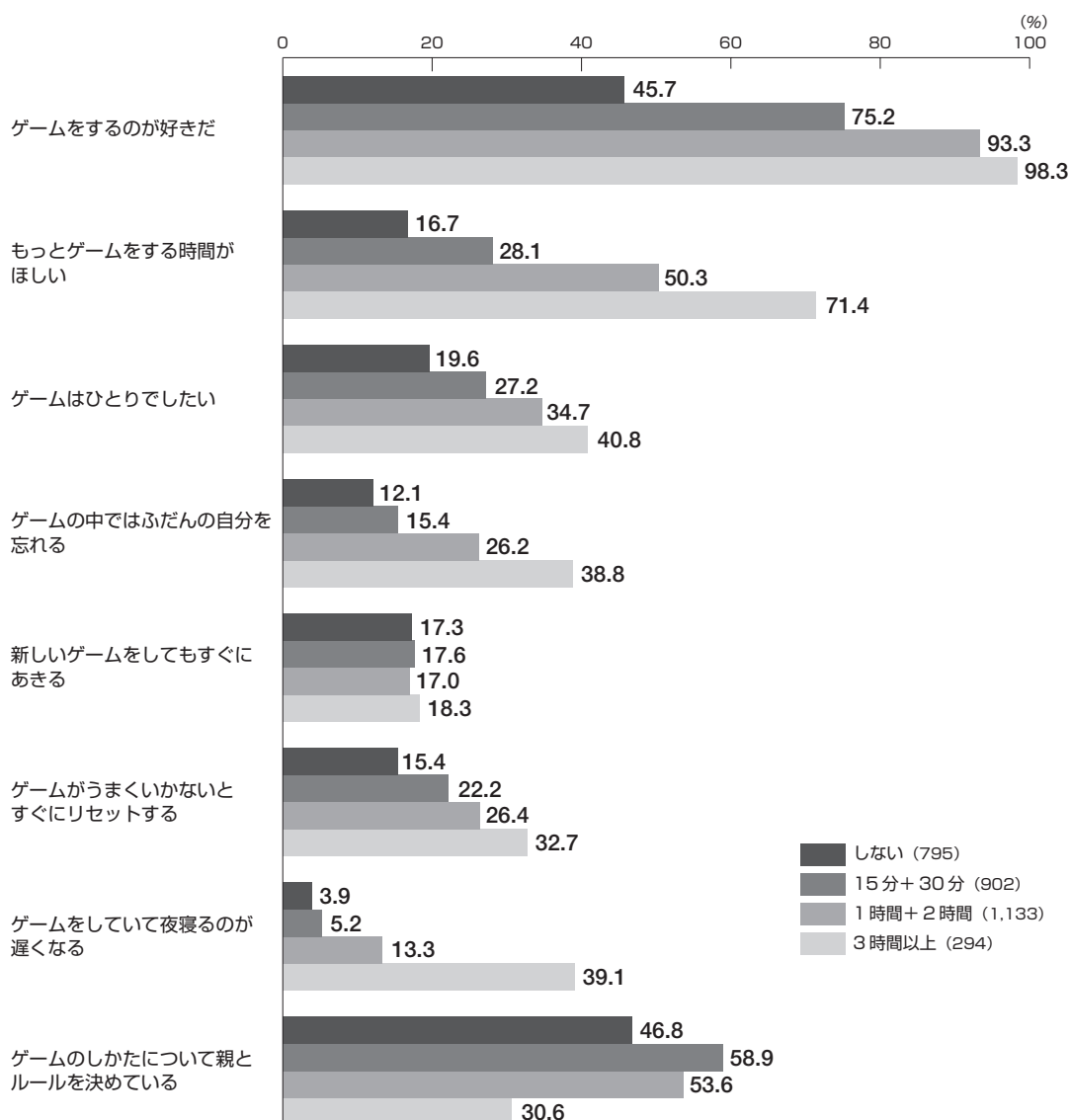
注3) ()内はサンプル数。

も同様の傾向だが、テレビゲームの時間ももっとも長い「3時間以上」という層で、「あてはまる」という回答が39.1%と、突出して多いことがわかる。また、「3時間以上」という層が、「ゲームのしかたについて親とル

ールを決めている」割合がもっとも少ない。

一方、「新しいゲームをしてもすぐにあきる」は、テレビゲームの時間による違いはみられなかった。

図3-1-2 テレビゲームについての意識と実態（小学生／テレビゲーム時間別）



注1) 「とてもあてはまる」 + 「まああてはまる」の%。

注2) 平日にテレビゲームをする時間（携帯ゲーム機、パソコン、携帯電話でのゲームを含む）をたずねた設問の回答別に示した。「15分+30分」は「15分くらい」 + 「30分くらい」、「1時間+2時間」は「1時間くらい」 + 「2時間くらい」、「3時間以上」は「3時間くらい」 + 「4時間くらい」 + 「4時間より多い」。

注3) ()内はサンプル数。

対面場面での携帯電話利用に対する意識

友だちと一緒にいるとき、友だちが「かかってきた電話に出る」のが「いや」と回答したのは、中・高校生ともに2割程度。「届いたメールに返事を書きはじめる」ことが「いや」という回答は3割程度。

携帯電話は、時と場所を選ばずに持ち運んで利用でき、それが大きな利便性と魅力を生み出しているツールである。しかしこれは裏返せば、時と場所を選ばずに、いつでもその場へと侵入してくるツールであるともいえる。ここでは、中・高校生に「あなたと一緒にいるときに、友だちが携帯電話で次のようなことをしたら、あなたはどのように感じますか」として、対面場面での携帯電話の利用にかかわる意識をたずねた結果をみていこう。具体的には、友だちが「かかってきた電話に出る」「届いたメールに返事を書きはじめる」という2つの場面を想定して回答してもらった。

◆ 友だちが「届いたメールに返事を書きはじめる」ことが「いや」なのは3割前後

図3-2-1によれば、自分と一緒にいるときに、友だちが「かかってきた電話に出る」ことが「いや」（「とてもいや」＋「少しいや」の％、以下同）と回答したのは、中学生で23.2%、高校生で18.7%だった。また、「届いたメールに返事を書きはじめる」ことについては、中学生で34.5%、高校生で26.8%だった。電話に出ることよりもメールへの返事のほうが「いや」という回答は多いものの、いずれの設問も「いや」という回答は少数派だった。

◆ 携帯電話の所有者のほうが、友だちの利用に寛容

さらに、中学生について、携帯電話の所有

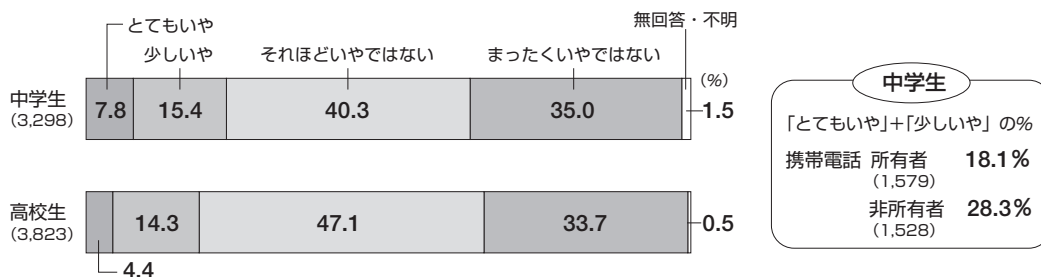
者と非所有者とに分けて意識の違いをみた。第1章第1節で示したように、中学生の携帯電話の所有率は47.8%であり、所有者と非所有者はほぼ半々ずつである。図3-2-1によると、「かかってきた電話に出る」では10ポイント程度、「届いたメールに返事を書きはじめる」では20ポイント程度、所有者のほうが非所有者よりも「いや」と感じる割合は低かった。なお、高校生は携帯電話の所有率が92.3%と高く、非所有者が少ないため、図は省略したが、こうした傾向は同様であった。

◆ 自分が気にしていない子どもは、友だちの行動も気にならない

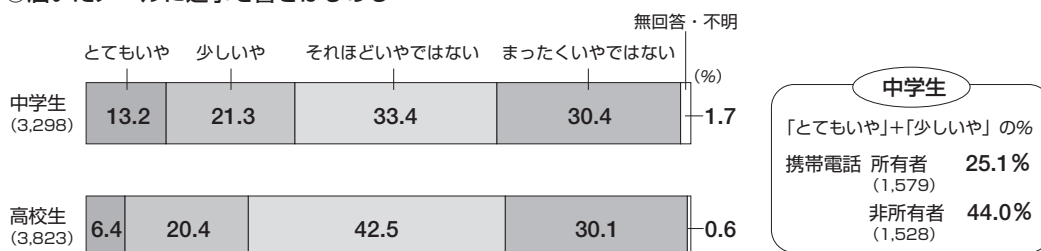
では、自分自身の携帯電話の使い方に関する意識との間に関連はあるだろうか。携帯電話の所有者のみにたずねた「携帯電話の利用で気にしていること」（第1章第2節参照）の設問で、「友だちといるときは携帯電話に出ない」ということを「気にしている（とても＋まあ）」層と、「気にしていない（あまり＋まったく）」層とに分けて、意識の違いをみた（図3-2-2）。図は中学生の結果を示しているが、「かかってきた電話に出る」ことも「届いたメールに返事を書きはじめる」ことも、「友だちといるときは携帯電話に出ない」ことを「気にしている」層のほうが、「気にしていない」層よりも、「いや」という回答は20～25ポイント程度高かった。

図3-2-1 対面場面での携帯電話利用に対する意識
(中・高校生、中学生/携帯電話所有別)

○かかってきた電話に出る



○届いたメールに返事を書きはじめる

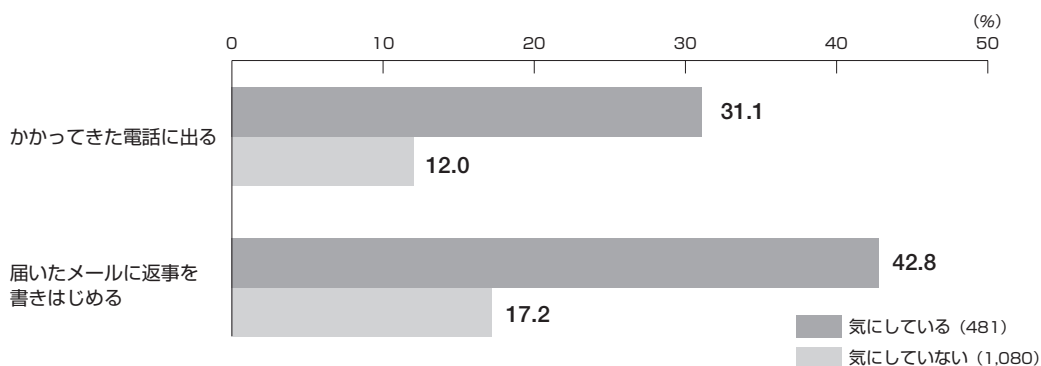


注1) 携帯電話の「所有者」は、「あなたは、携帯電話を持っていますか」の設問に、「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人。「非所有者」は「携帯電話は持っていない」と回答した人。

注2) この設問は、中・高校生のみにしたすねた。

注3) () 内はサンプル数。

図3-2-2 対面場面での携帯電話利用に対する意識
(中学生/「友だちといるときは携帯電話に出ない」の意識別)



注1) 「とてもいや」+「少しいや」の%。

注2) この設問は、中・高校生のみにしたすねた。なお、ここでは中学生の結果のみを示した。

注3) 「気にしている」は、携帯電話の所有者のみにしたすねた「携帯電話の利用で気にしていること」に関する設問で、「友だちといるときは携帯電話に出ない」ということを「とても気にしている」「まあ気にしている」と回答した人。「気にしていない」は、「あまり気にしていない」「まったく気にしていない」と回答した人。

注4) () 内はサンプル数。

ブログや掲示板の利用の意識

「ブログや掲示板」「プロフ」の利用は、学校段階があがるにつれて顕著に増加する。8割近くの高校生がブログや掲示板を読んでおり、2割が知らない人のブログや掲示板に書きこみをする。また、性別では女子の利用が活発。

近年、ブログや掲示板、プロフなどが、インターネット上での新たな情報収集や発信、ひいてはコミュニケーションの手段として注目されている。ブログとは、ウェブのログ（記録）を縮めた言葉で、情報発信や日記の公開などが個人でも気軽にできることから、急速に利用が広がっている。掲示板（電子掲示板）とは、あたかも実際の掲示板を使うように、インターネット上で情報を提示したり、コメントをつけあったりできることから、この名で呼ばれる。プロフとは、プロフィールの略語で、趣味などの自己紹介を作成して公開できるサイトのサービスである。これらは、情報交流の新たな手段としての可能性を秘めている一方で、文字中心で匿名性が高い情報のやりとりという特性から、情報の信憑性やコミュニケーション上の危うさが、社会的な課題になることも少なくない。

こうしたブログ・掲示板やプロフを、子どもたちはどれくらい利用しているのだろうか。その利用のしかた（程度）や方法はさまざまであると考えられるため、ここでは以下の2つの観点を区別してたずねることとした。第1に利用のしかたである。すなわち「ブログや掲示板」については、「読む」「友だちのものに書きこむ」「知らない人のものに書きこむ」「自分のものをつくる」、 「プロフ」については、「読む」「自分のものをつくる」に分けた。第2に利用する方法である。すなわち、利用する場合はパソコンで行うのか、携帯電話で行うのかである。さらに、両方の場合といずれ

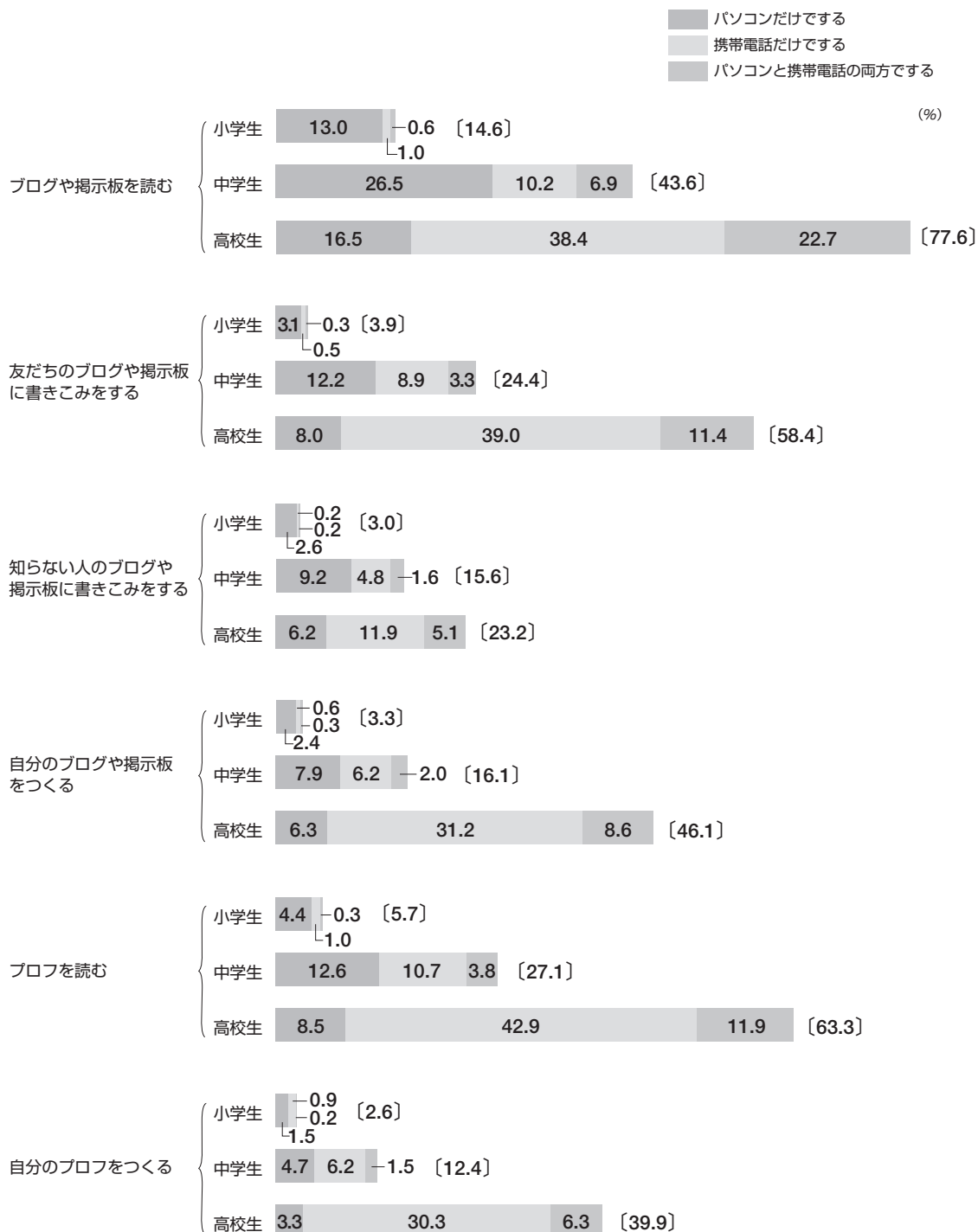
もない場合、さらに、これらの言葉が「わからない」（回答できない）をあわせた5つを選択肢として、利用のしかたごとにたずねた。

◆ 高校生は8割近くが ブログや掲示板を読んでいる

図3-3-1は、ブログ・掲示板やプロフの利用について、学校段階別に示したものである。ここから、少なくとも4つのことが読み取れるだろう。第1に「パソコンだけです」「携帯電話だけです」「パソコンと携帯電話の両方です」を合計した利用率は、どの学校段階でも「ブログや掲示板を読む」がもっとも高い。小学生で14.6%、中学生で43.6%、高校生で77.6%である。

第2に、これ以外のいずれの利用のしかたについても、学校段階があがるにつれて、利用率は顕著に増加する。「ブログや掲示板を読む」は前述のとおりだが、「プロフを読む」は小学生5.7%<中学生27.1%<高校生63.3%、「友だちのブログや掲示板に書きこみをする」は小学生3.9%<中学生24.4%<高校生58.4%などとなっている。なお、この設問は、ブログ・掲示板やプロフの利用に主眼があるため、全員にたずねている。そのため、学校段階によって、家庭でのパソコンの利用率（第2章第1節参照）や、携帯電話の所有率（第1章第1節参照）が異なるということが、ブログ・掲示板やプロフの利用率の推移に関しても、1つの大きな背景にあることには留意が必要である。

図3-3-1 ブログ・掲示板やプロフの利用（学校段階別）



注1) [] 内の数値は利用率（「パソコンだけでする」＋「携帯電話だけでする」＋「パソコンと携帯電話の両方でする」の％）。

注2) サンプル数は小学生3,146人、中学生3,298人、高校生3,823人。

◆「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」高校生は23.2%

第3に、ブログ・掲示板の利用のしかたによる利用率の違いをみると、学校段階を問わず、「ブログや掲示板を読む」>「友だちのブログや掲示板に書きこみをする」>「自分のブログや掲示板をつくる」>「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」の順になっている。もっとも少ない「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」は、小学生で3.0%、中学生で15.6%、高校生で23.2%である。「書きこみ」や「自分のものをつくる」といった情報収集・発信行動ごとに違いがみられることは、興味深い。

◆携帯電話での利用が多い高校生

第4に、高校生は、ブログ・掲示板やプロフを携帯電話で利用する割合が高い。たとえば「ブログや掲示板を読む」をみると、「携帯電話だけです」と「パソコンと携帯電話の両方です」の合計は、中学生では17.1%なのに対して、高校生では61.1%に跳ね上がる。また、「携帯電話だけです」という回答も大きく増えることが目立つ（中学生10.2%→高校生38.4%）。携帯電話自体の所有率の増加と相まって、高校生の情報行動にとっては、携帯電話が大きな位置を占めていること

がわかる。

◆女子の利用が活発

次に、ブログ・掲示板やプロフの利用について、学校段階ごとの性別に分けてみた（表3-3-1）。小学生は、いずれの項目も全体としての利用率が低いため、大きな差はみられないが、中・高校生では、女子のほうが男子より、利用している割合が顕著に高い。

中学生でもっとも大きな差がみられたのは、「プロフを読む」である。「パソコンだけです」「携帯電話だけです」「パソコンと携帯電話の両方です」をあわせた利用率は、男子では13.0%なのに対し、女子では41.9%にもものぼり、28.9ポイントの差があった。次いで、「ブログや掲示板を読む」の差が大きく28.0ポイント差である（男子29.9%<女子57.9%）。

高校生では、「自分のブログや掲示板をつくる」の差がもっとも大きい。男子では29.0%なのに対し、女子では60.3%であり、31.3ポイントの差である。次いで、「友だちのブログや掲示板に書きこみをする」の差が大きい（男子41.8%<女子72.1%、30.3ポイント差）。全体として、中・高校生の女子の多くが、ブログ・掲示板やプロフを活発に利用していることがわかる。

表3-3-1 プログ・掲示板やプロフの利用（学校段階別／性別）

(%)

		小学生				中学生				高校生			
		利用率	パソコン だけで する	携帯電話 だけで する	パソコンと 携帯電話 の両方で する	利用率	パソコン だけで する	携帯電話 だけで する	パソコンと 携帯電話 の両方で する	利用率	パソコン だけで する	携帯電話 だけで する	パソコンと 携帯電話 の両方で する
プログや掲示板 を読む	男子	[11.9]	10.9	0.6	0.4	[29.9]	20.9	6.3	2.7	[68.2]	17.3	33.4	17.5
	女子	[17.4]	15.1	1.5	0.8	[57.9]	32.4	14.3	11.2	[85.5]	15.8	42.6	27.1
友だちのプログ や掲示板に 書きこみをする	男子	[2.4]	1.8	0.3	0.3	[12.3]	6.8	4.6	0.9	[41.8]	6.2	27.7	7.9
	女子	[5.6]	4.5	0.8	0.3	[37.2]	17.8	13.5	5.9	[72.1]	9.5	48.3	14.3
知らない人の プログや掲示板 に書きこみを する	男子	[2.9]	2.5	0.1	0.3	[8.9]	5.9	2.4	0.6	[18.6]	5.6	9.0	4.0
	女子	[3.2]	2.8	0.3	0.1	[22.6]	12.6	7.4	2.6	[27.1]	6.7	14.4	6.0
自分のプログや 掲示板をつくる	男子	[2.9]	2.0	0.6	0.3	[7.9]	4.8	2.5	0.6	[29.0]	5.3	19.0	4.7
	女子	[3.9]	3.0	0.6	0.3	[24.7]	11.1	10.0	3.6	[60.3]	7.1	41.3	11.9
プロフを読む	男子	[4.3]	3.4	0.6	0.3	[13.0]	6.6	5.6	0.8	[48.2]	7.0	33.7	7.5
	女子	[7.2]	5.4	1.5	0.3	[41.9]	19.0	16.0	6.9	[76.0]	9.8	50.7	15.5
自分のプロフを つくる	男子	[2.2]	1.3	0.6	0.3	[5.1]	2.0	2.7	0.4	[26.0]	2.6	19.9	3.5
	女子	[3.0]	1.7	1.2	0.1	[20.3]	7.5	10.0	2.8	[51.5]	3.9	38.9	8.7

注1) [] 内の数値は利用率（「パソコンだけでする」＋「携帯電話だけでする」＋「パソコンと携帯電話の両方でする」の％）。

注2) サンプル数は、小学生男子1,581人、女子1,553人。中学生男子1,686人、女子1,597人。高校生男子1,720人、女子2,072人。

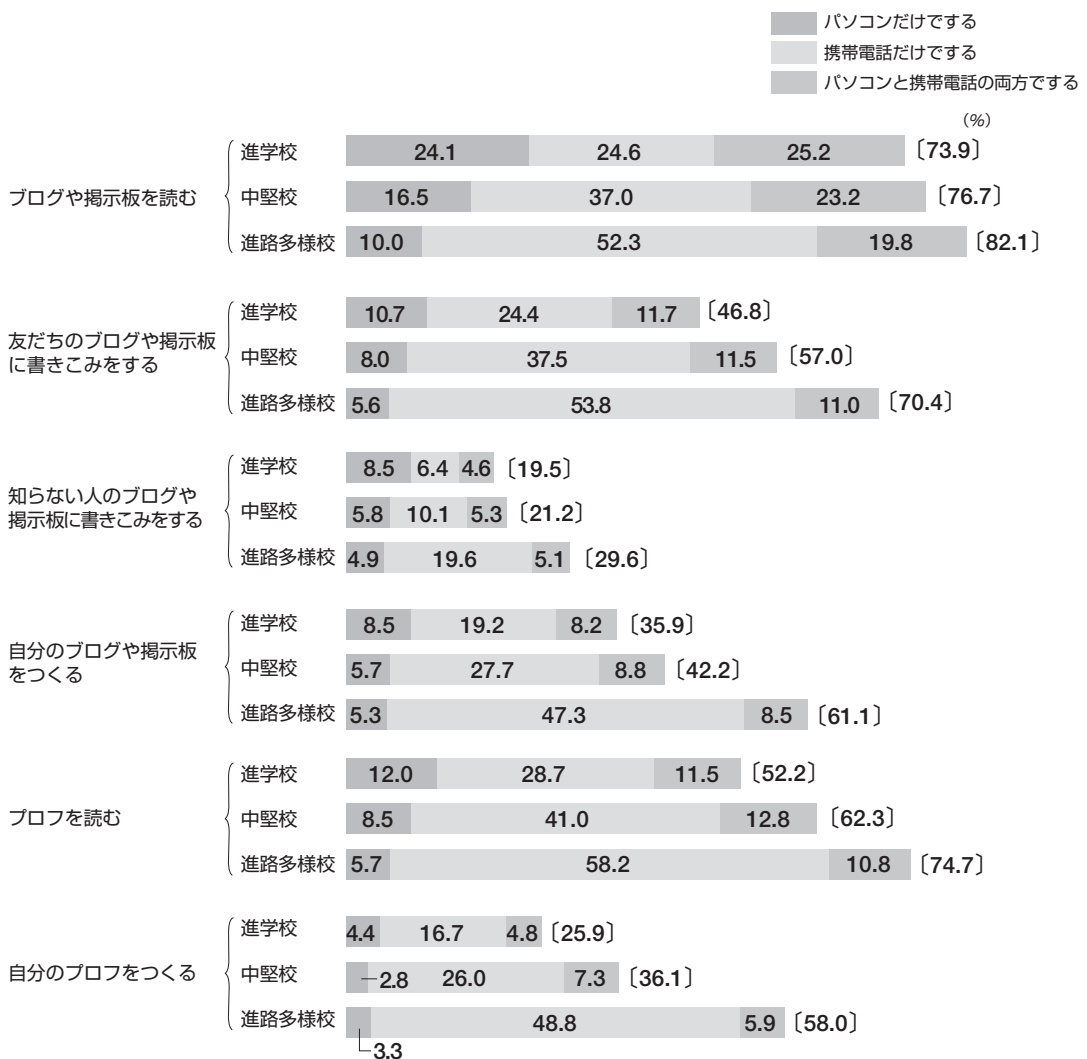
◆積極的に利用する進路多様校の高校生

全体での利用率が高い高校生に絞って、さらに高校偏差値層別にみたものが、図3-3-2である。これによると、多くの項目で、進学校や中堅校よりも、進路多様校の生徒の利用が活発であることがわかる。とくに「自分のプロフをつくる」（進学校25.9%、中堅校36.1%、進路多様校58.0%）や、「自分のブログや掲示板をつくる」（進学校35.9%、中堅

校42.2%、進路多様校61.1%）で差が大きい。次いで、「プロフを読む」や「友だちのブログや掲示板に書きこみをする」でも差が大きい。

こうした結果からは、進路多様校の生徒のほうが、自分にかかわる情報発信を行うと同時に、友だちからの発信も受け取るという、コミュニケーションの1つのかたちとして、積極的にブログ・掲示板やプロフを利用してはいるのではないかと推察される。

図3-3-2 ブログ・掲示板やプロフの利用（高校生／高校偏差値層別）



◆ インターネットを通じて知り合った人と直接会ったことがある高校生は1割

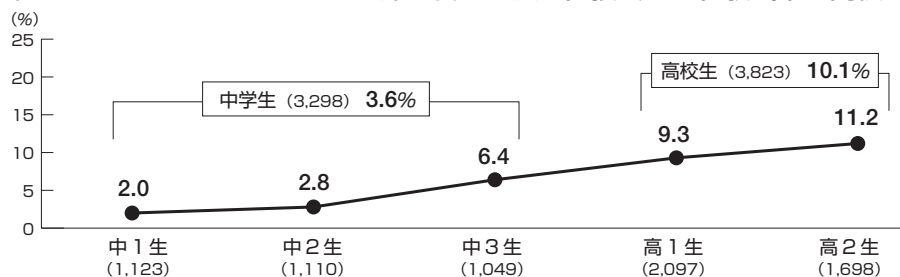
ここまで、ブログ・掲示板やプロフの利用についてみてきた。では、これらを含めたインターネットの存在が、対面での人間関係の構築に結びつくことは、どのくらいあるのだろうか。ここでは、中・高校生に「インターネットを通じて知り合った人と、直接会ったことがありますか」というかたちでたずねた結果をみていこう。

図3-3-3は、学年別の結果を示している。こうした経験がある割合は、学年があが

るにつれて、若干上昇する傾向がみられる。中学生全体では3.6%、高校生全体では10.1%である。

性別に示したものが表3-3-2、成績・高校偏差値層別に示したものが表3-3-3である。「ある」と回答した割合をみると、性別では、高校生で男子7.7%に対して、女子が12.1%と、女子のほうが4.4ポイント高い。成績・高校偏差値層別については、進路多様校の高校生の14.8%が「ある」と回答しており、他が1割未満であるのと比べるとその割合が高い。

図3-3-3 インターネットで知り合った人と直接会った経験（中・高校生、学年別）



注1) 「ある」の%。

注2) この設問は、中・高校生のみにとずねた。

注3) () 内はサンプル数。

表3-3-2 インターネットで知り合った人と直接会った経験（中・高校生／性別）

	中学生		高校生	
	男子 (1,686)	女子 (1,597)	男子 (1,720)	女子 (2,072)
ある	3.1	4.2	7.7	12.1
ない	93.4	93.8	90.8	86.6
無回答・不明	3.4	2.0	1.5	1.3

注1) この設問は、中・高校生のみにとずねた。

注2) () 内はサンプル数。

表3-3-3 インターネットで知り合った人と直接会った経験（中・高校生／成績・高校偏差値層別）

	上位 (1,127)	中学生 中位 (889)	下位 (1,203)	進学校 (928)	高校生 中堅校 (1,802)	進路多様校 (1,093)
	ある	2.3	2.9	5.7	7.7	8.4
ない	95.7	95.1	90.9	91.3	90.5	83.0
無回答・不明	2.0	2.0	3.4	1.1	1.1	2.2

注1) この設問は、中・高校生のみにとずねた。

注2) () 内はサンプル数。

◆「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」こととの関連性

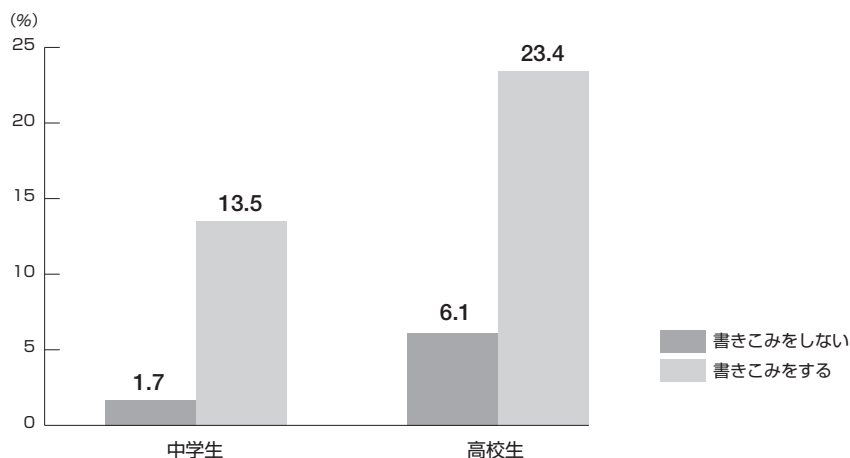
最後に、インターネットを通じて知り合った人と直接会うという経験と、ブログ・掲示板やプロフの利用との関係のみてみよう(図3-3-4)。ここでは、「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」ことをするかどうかによって、直接会った経験に違いがあるかどうかを示した。

これによると、中・高校生ともに「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」ことがあるかどうかによって違いがみられた。中学生で「書きこみをしない」場合に直接会った経験をもつ割合は1.7%にとどまるが、「書きこみをする」場合では13.5%である。さらに、高校生で「書きこみをしない」場合

は6.1%だが、「書きこみをする」場合は23.4%が直接会った経験をもっている。

この結果だけからでは、「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」ことが、どのようなかたちで「インターネット上で知り合った人と直接会う」とことと関係するのかわからない。直接の契機になることもあるだろうし、さまざまな場面で活発にインターネットを利用していること象徴として、「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」ことによって違いがあらわれたのかもしれない。ただ、いずれにせよ、こうしたインターネット上でのやりとりの程度の違いが、そこで知り合った人と直接会うという経験と関連していることが示されているのは確かだろう。

図3-3-4 インターネットで知り合った人と直接会った経験
(中・高校生／「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」ことの有無別)



注1) 「ある」の%。

注2) この設問は、中・高校生のみならずねた。

注3) 「書きこみをする」は、「ブログ・掲示板やプロフの利用に関する設問の「知らない人のブログや掲示板に書きこみをする」に、「パソコンだけです」「携帯電話だけです」「パソコンと携帯電話の両方です」と回答した人。「書きこみをしない」は「しない」と回答した人。なお、「わからない」と回答した人については、図から省略した。

注4) サンプル数は、中学生「書きこみをしない」2,578人、「書きこみをする」512人。高校生「書きこみをしない」2,806人、「書きこみをする」887人。

コミュニケーション手段の選択

周囲の人とのコミュニケーションは、中学生では「直接話す」が多いが、高校生では「友だちを遊びに誘う」場合に「メールを送る」を選択する者が多くなる。携帯電話が友だちとのコミュニケーションを大きく変えている。

本節では、いくつかの場面を設定して、それぞれの場面でどのようなコミュニケーションの手段を用いるかをたずねた結果をみていこう。この設問は中・高校生の全員を対象とした。中学生や高校生は、対面で直接話をす以外に、電話やメール、手紙などの手段を、どのようなときに用いているのだろうか。

◆中学生は「直接話す」が多い

図3-4-1は、中学生の結果である。中学生は、全体に「直接話す」を選択する比率が高いのが特徴である。ただし、「友だちを遊びに誘う」ような場面では、2～3割程度が「電話で話す」や「メールを送る」を選択している。

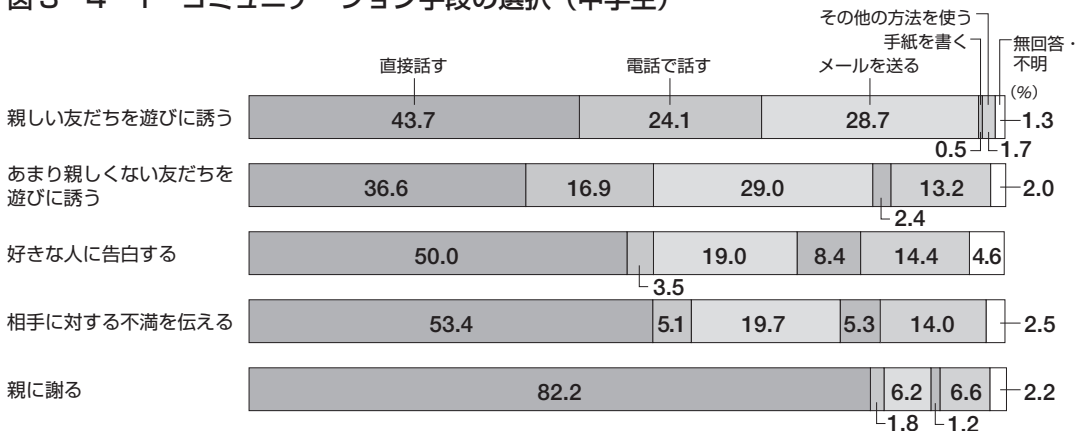
「親しい友だちを遊びに誘う」では、「直接

話す」が半数を下回り、43.7%となっている。「電話で話す」が24.1%、「メールを送る」が28.7%と、ツールを用いて誘うケースも多い。「あまり親しくない友だちを遊びに誘う」場面では、「直接話す」はさらに減り、4割を下回る。「メールを送る」は29.0%で、親しい友だちを誘う場合とほとんど変わらない。

「好きな人に告白する」と「相手に対する不満を伝える」は、いずれも半数が「直接話す」を、およそ2割が「メールを送る」を選択している。「手紙を書く」は1割に満たない。中学生段階でも、気持ちを伝える手段として「手紙」を選ぶことは少ないようだ。

「親に謝る」では、8割以上が「直接話す」を選んでおり、親子間の重要なコミュニケーションは対面で行うことが多い。

図3-4-1 コミュニケーション手段の選択（中学生）



注1) この設問は、中・高校生のみにたずねた。

注2) サンプル数は3,298人。

◆ 高校生の友だちとのやりとりは

「メールを送る」が主流に

一方、高校生では、友だちとのやりとりにおいて「メールを送る」が主流になる。図3-4-2に、高校生の結果を示した。「親しい友だちを遊びに誘う」では57.1%が、「あまり親しくない友だちを遊びに誘う」では67.4%が「メールを送る」を選択している。「直接話す」は2～3割程度にとどまる。

これに対して、「好きな人に告白する」「相手に対する不満を伝える」では、「メールを送る」が2割程度いるものの、「直接話す」が6割前後で中学生よりも多くなっている。いずれのケースでも「手紙を書く」は1%程度しかおらず、ラブレターを書くといった若者文化はほとんど消滅しているようだ。「親に謝る」では「直接話す」が8割を超え、中学生とほぼ同様の結果である。

高校生の携帯電話の所有率は9割を超えるが、だからといってコミュニケーションのほとんどを携帯電話に頼るというわけではない。友だちを遊びに誘うような気楽な場面ではメール、それ以外の相手や重要な内容の場合は直接話をするといったように、コミュニケーションの手段を状況によって使い分けていることが読み取れる。

◆ 携帯電話の所有とともに

「メールを送る」が増える

それでは、携帯電話は友だちとのコミュニケーションにどのような影響を与えるのだろうか。この点を考察するために、携帯電話の所有率が約5割の中学生に限定して、携帯電話所有者と非所有者のコミュニケーションの違いをみてみよう。

図3-4-3は、「親しい友だちを遊びに誘う」ときに使う手段を示している。携帯電話を持っているかどうかに加えて、男子と女子で結果がどう異なるかも表示した。ここからは、主に次のようなことがわかる。

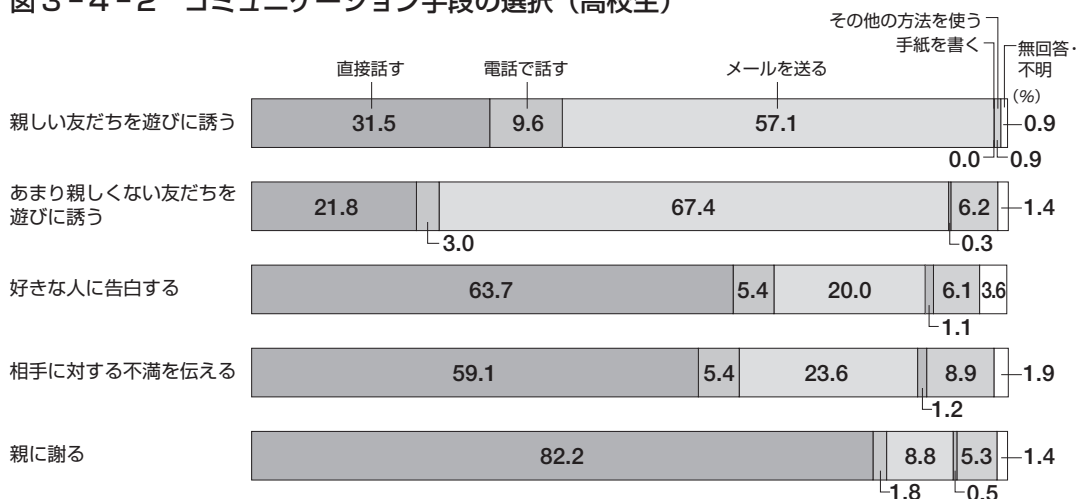
第1に、携帯電話所有者の約半数が「メールを送る」を選択している。メールで誘うことは非所有者だと1割に満たないので、携帯電話の所有とともに友だちとの連絡がメール中心になることがわかる。

第2に、携帯電話の所有者は「直接話す」が33.8%、「電話で話す」が15.8%であり、いずれも非所有者に比べて少ない。携帯電話を持つと、対面で遊びに誘うことも、電話でやりとりすることも減る。

第3に、男子は女子に比べて「電話で話す」が多いのに対して、女子は「直接話す」が多い傾向がある。「メールを送る」もわずかではあるが女子に多い。それほど大きな違いとはいえないが、性別によって好む手段が異なるようだ。

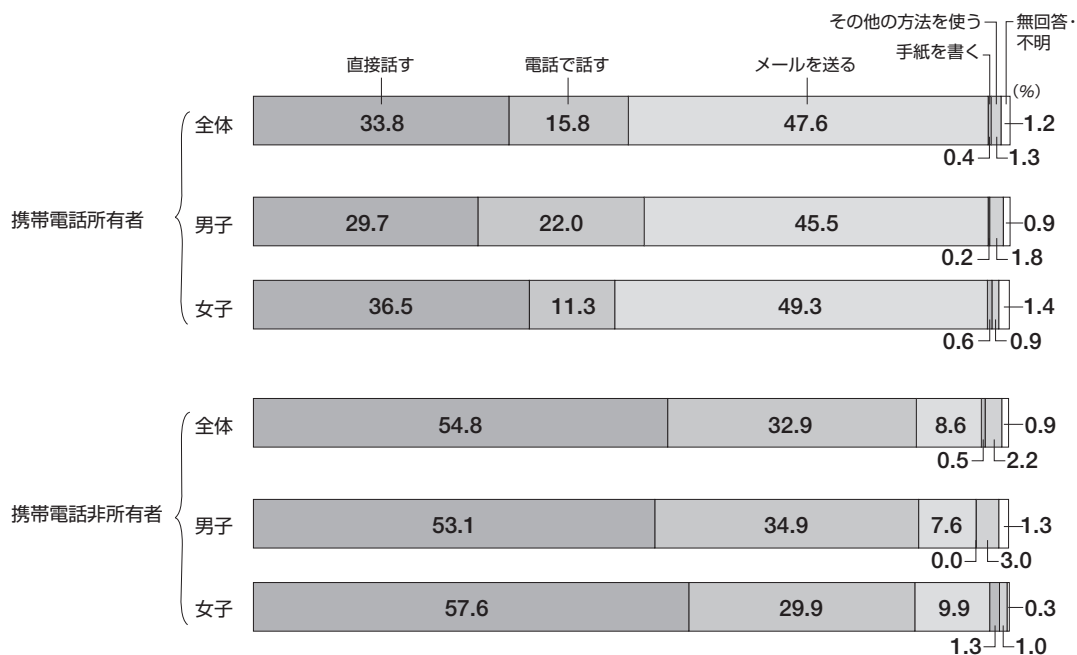
中学生の携帯電話所有者の数値を高校生(図3-4-2)と比べてみると、「メールを送る」が10ポイント程度少ないものの、傾向は類似しているといえるだろう。携帯電話の所有率が5割程度なので持っていない友だちもいるはずであるが、ひとたび所有すれば携帯電話がコミュニケーションの中心になってしまう。このような状況では、携帯電話を所有している者同士が頻繁にメールのやりとりをする結果になり、所有者と非所有者で関係が分断されることが懸念される。いずれにしても、携帯電話が友だちとのコミュニケーションを大きく変えていることは間違いない。

図3-4-2 コミュニケーション手段の選択（高校生）



注1) この設問は、中・高校生のみにあずねた。
 注2) サンプル数は3,823人。

図3-4-3 「親しい友だちを遊びに誘う」ときの手段
 (中学生/携帯電話所有別、中学生/性別/携帯電話所有別)



注1) 携帯電話所有者は「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に、「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人。携帯電話非所有者は、同じ設問に「携帯電話は持っていない」と回答した人。
 注2) この設問は、中・高校生のみにあずねた。ここでは中学生の回答のみを分析した。
 注3) サンプル数は、携帯電話所有者・全体1,579人、携帯電話所有者・男子664人、携帯電話所有者・女子909人、携帯電話非所有者・全体1,528人、携帯電話非所有者・男子905人、携帯電話非所有者・女子615人。

調べる手段の選択

学習にかかわる調べものをするときに、中学生は「人に聞く」という手段をとることが相対的に多い。これに対して、高校生は調べる内容によって手段を使い分けている。調べる手段は、成績によっても異なっている。

子どもたちは、学習などで調べものをするときに、どのような手段を用いているのだろうか。本節では、主に学習関連の調べものをする場面で、ICTメディアがどれくらい活用されているかを検討する。調査では、「家で勉強をしていて書き方がわからない漢字を調べるとき」「宿題で調べものをするとき」「自分の進路について調べるとき」の3つの場面を設定して、もっともよく使うと思う方法を1つだけ選んでもらった。この設問も、中学生と高校生の全員を対象としている。図3-5-1は、その結果である。

◆ 高校生は内容によって手段を使い分けている

①漢字を調べるとき

最初に、「家で勉強をしていて書き方がわからない漢字を調べるとき」をみてみよう。中学生では「辞書を使う」が35.4%でもっとも多く、「人に聞く」(26.7%)がそれに続く。高校生では、「電子辞書を使う」が36.0%と多く、「辞書を使う」(26.1%)、「携帯電話を使う」(23.0%)の順となる。中学生も高校生も、「パソコンを使う」は2~3%程度で少ない。いずれも手軽な手段を選んでいるようだが、高校生になると電子辞書や携帯電話の所有率が高まるため、人に聞いたり、辞書を使ったりすることが少なくなる。

②宿題で調べものをするとき

次に、「宿題で調べものをするとき」の結

果はどうだろうか。中学生では、「人に聞く」(30.0%)、「本や事典を使う」(29.5%)、「パソコンを使う」(28.7%)の3項目が、いずれも3割前後となった。中学生に比べて高校生は、「人に聞く」(16.9%)が13.1ポイント低く、「本や事典を使う」(38.7%)や「携帯電話を使う」(10.4%)を選択する者が多い。「パソコンを使う」は3割で中学生と変わらず、宿題の調べものについてはパソコンを頼りにするようになるというわけではなさそうだ。また、宿題の場合は一定の分量があるためか、「携帯電話を使う」は他の手段に比べると少ない。

③進路について調べるとき

最後に、「自分の進路について調べるとき」の結果である。中学生は、「人に聞く」が41.0%と多く、「パソコンを使う」(27.4%)、「本や雑誌を使う」(17.3%)と続く。保護者や学校の教員、塾の講師などに話を聞くような場面が多いのだろう。これに対して、高校生は「パソコンを使う」が47.6%と半数に迫る。また、「本や雑誌を使う」が25.7%であり、中学生よりも多い。進路に関する情報については、パソコンや本・雑誌などを使って自分から探しに行くケースが増えるようだ。ここでも、調べる内容に一定の分量があるためか、「携帯電話を使う」を選択する者は少ない。

●中学生と高校生の違い

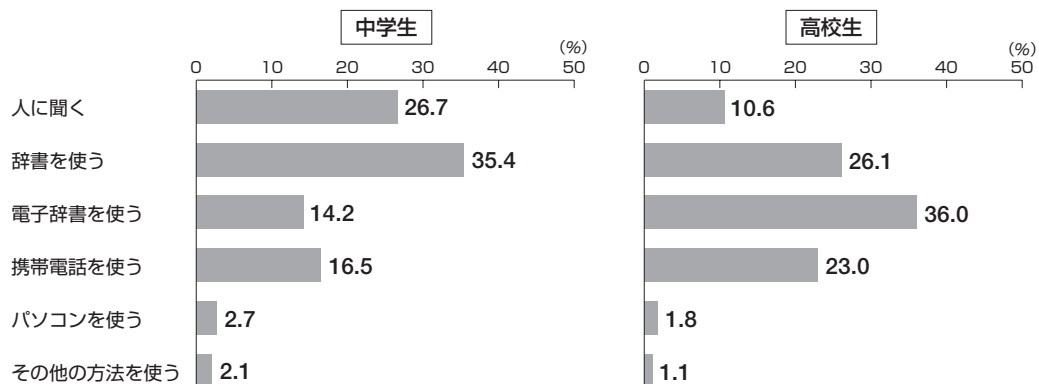
全体に、中学生は「人に聞く」という回答が多く、いずれの内容を調べる際にも、1番

目か2番目になっている。これに対して、高校生は「人に聞く」がいずれの内容でも1割台である。高校生は、漢字を調べるときは「電子辞書を使う」、宿題の調べものでは「本

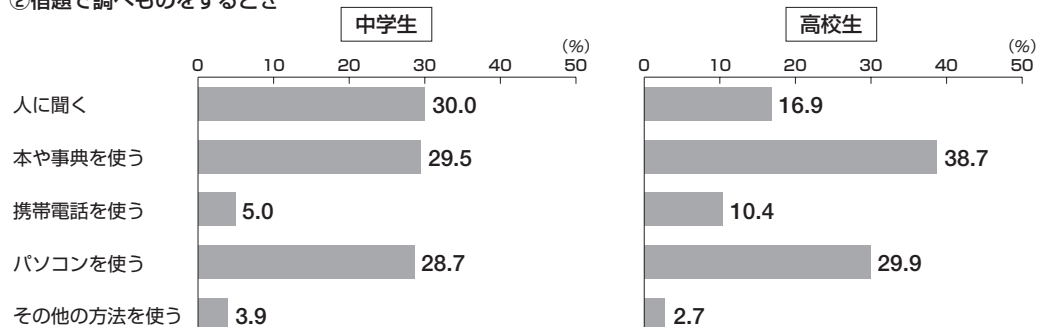
や事典を使う」、進路について調べるときは「パソコンを使う」がもっとも多いという具合に、調べる内容によって用いる手段を使い分けているようだ。

図3-5-1 調べる手段の選択（中・高校生）

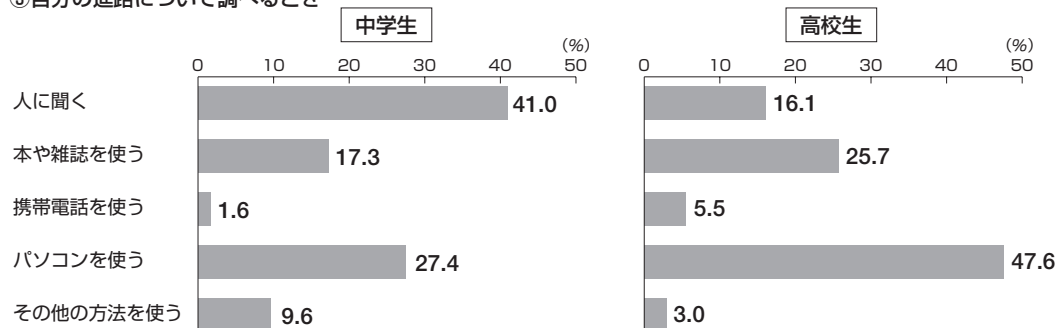
①家で勉強をしていて書き方がわからない漢字を調べるとき



②宿題で調べものをするとき



③自分の進路について調べるとき



注1) この設問は、中・高校生のみにしたずねた。

注2) 「③自分の進路について調べるとき」は、中学生には「自分の進路（高校や職業など）について調べるとき」、高校生には「自分の進路（大学や職業など）について調べるとき」としてたずねた。

注3) 無回答・不明は省略した。

注4) サンプル数は、中学生3,298人、高校生3,823人。

◆ 成績上位層は自分で調べている

それでは、調べるときの手段は成績などによって異なるのだろうか。このことを確認するため、中学生（表3-5-1）については成績の自己評価別、高校生（表3-5-2）については学校の偏差値層別に、調べる手段の違いをみてみた。

① 中学生

中学生（成績別）では、「家で勉強をして

いて書き方がわからない漢字を調べるとき」と「宿題で調べものをするとき」の2項目は成績による違いがある。成績上位層に多い調べ方をみると、「漢字を調べるとき」は、「辞書を使う」が多く、「携帯電話を使う」が少ない。また、「宿題で調べものをするとき」では、「パソコンを使う」が多く、「人に聞く」が少ない。この2項目に対して、「自分の進路（高校や職業など）について調べるとき」は、成績による差があまりなかった。

表3-5-1 調べる手段の選択（中学生／成績別）

		(%)			
		上位 (1,127)	中位 (889)	下位 (1,203)	差 (上位-下位)
家で勉強をしていて書き方がわからない漢字を調べるとき	人に聞く	23.6	26.8	29.3	-5.7
	辞書を使う	43.6	34.0	29.0	14.6
	電子辞書を使う	16.5	15.5	11.1	5.4
	携帯電話を使う	11.2	16.6	21.4	-10.2
	パソコンを使う	2.7	1.9	3.2	-0.5
	その他の方法を使う	1.1	1.6	3.4	-2.3
宿題で調べものをするとき	人に聞く	25.6	28.2	35.7	-10.1
	本や事典を使う	34.2	29.9	24.9	9.3
	携帯電話を使う	2.8	4.5	7.6	-4.8
	パソコンを使う	33.5	29.9	23.5	10.0
	その他の方法を使う	2.6	4.2	4.7	-2.1
自分の進路（高校や職業など）について調べるとき	人に聞く	42.1	39.7	41.1	1.0
	本や雑誌を使う	18.5	18.1	16.0	2.5
	携帯電話を使う	0.9	1.6	2.3	-1.4
	パソコンを使う	29.2	27.9	25.3	3.9
	その他の方法を使う	6.9	9.4	12.1	-5.2

注1) 差はポイント差を示す。

注2) 無回答・不明は省略した。

注3) () 内はサンプル数。

②高校生

高校生（高校偏差値層別）は、中学生よりも大きな差が表れており、どのような学校に属しているかで、調べ方が異なることがわかる。進学校に通う生徒の特徴をみると、「漢字を調べるとき」では、「電子辞書を使う」「辞書を使う」が多く、「携帯電話を使う」「人に聞く」が少ない。また、「宿題で調べものをするとき」については、「本や事典を使う」「パソコンを使う」が多く、「携帯電話を使う」

「人に聞く」が少ない。「自分の進路（大学や職業など）について調べるとき」も、それと同様の結果である。

全体に、中学校では成績上位層の生徒が、高校では進学校に通う生徒が、辞書や書籍、パソコンなどを使って自分で調べていることがわかる。それに対して、成績下位層の生徒や進路多様校の生徒は、「人に聞く」「携帯電話を使う」などのより簡便な方法を使って調べものを行っているようだ。

表3-5-2 調べる手段の選択（高校生／高校偏差値層別）

		(%)			
		進学校 (928)	中堅校 (1,802)	進路多様校 (1,093)	差 (進学校-進路多様校)
家で勉強をしていて書き方がわからない漢字を調べるとき	人に聞く	7.2	9.0	15.9	-8.7
	辞書を使う	28.6	30.5	16.9	11.7
	電子辞書を使う	54.8	38.4	15.9	38.9
	携帯電話を使う	6.9	18.5	44.1	-37.2
	パソコンを使う	1.1	1.5	2.8	-1.7
	その他の方法を使う	0.8	1.2	1.2	-0.4
宿題で調べものをするとき	人に聞く	13.5	12.7	26.6	-13.1
	本や事典を使う	41.3	45.6	25.2	16.1
	携帯電話を使う	4.8	7.7	19.6	-14.8
	パソコンを使う	37.2	30.1	23.4	13.8
	その他の方法を使う	2.4	2.9	2.6	-0.2
自分の進路（大学や職業など）について調べるとき	人に聞く	12.6	15.0	21.0	-8.4
	本や雑誌を使う	24.7	28.3	22.4	2.3
	携帯電話を使う	2.7	5.3	8.1	-5.4
	パソコンを使う	57.2	47.3	39.9	17.3
	その他の方法を使う	1.9	2.6	4.7	-2.8

注1) 差はポイント差を示す。
 注2) 無回答・不明は省略した。
 注3) () 内はサンプル数。

科学技術観

携帯電話がコミュニケーションの力を伸ばすと思うか、コンピュータが発達すると世の中がよくなると思うかについては、中学生も高校生も意見が二分した。実際にメディアを使っている生徒のほうが、肯定的な意見をもっている。

インターネットや携帯電話の普及、コンピュータの発達などについて、子どもたちはどのような考えをもっているのだろうか。本節では、中学生と高校生にたずねた結果を概観しよう。調査では、AとBの対立する2つの意見のうち、「あなたの考えに近いものはどちらですか」とたずねている。図3-6-1は、その結果である。

◆ コンピュータ発達の功罪は 中・高校生ともに意見が拮抗

①インターネットと覚えること

最初に、インターネットの発達によって「記憶すること」の価値が変化しているのかを確かめた。調査では、自分の意見が「A. インターネットで調べられることは、無理に覚える必要はない」と「B. インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい」のどちらに近いかをたずねた。中学生では、「A」（「Aに近い」＋「どちらかといえばAに近い」の％、以下同）を選択した生徒が34.8％、「B」（「Bに近い」＋「どちらかといえばBに近い」の％、以下同）を選択した生徒が63.7％だった。これは、高校生もほぼ同様の結果である。インターネットを用いることで調べる方法が簡便になっても、必要な知識は覚えておくべきだと考える生徒のほうが多い。

②携帯電話とコミュニケーション力

次に、「A. 携帯電話はコミュニケーション

の力を伸ばすと思う」と「B. 携帯電話がコミュニケーションの力を伸ばすとは思わない」のどちらの意見に自分の考えが近いかをたずねた。中学生は「A」51.9％に対して「B」46.0％、高校生は「A」50.5％に対して「B」48.7％と、ともに意見が二分した。中学生や高校生では携帯電話を用いたやりとりが頻繁になっている。そうした日常の経験がコミュニケーション力を伸ばすと思う生徒とそう思わない生徒が、だいたい半々で存在する。

③コンピュータ発達の功罪

最後に、コンピュータが発達することで「A. 世の中がよくなる」と思うか、それとも、「B. 失われるものが多い」と感じるかをたずねた。中学生では、「A」47.0％に対して「B」50.8％、高校生は「A」51.3％に対して「B」47.6％という結果になった。ここでも、中学生・高校生ともにAとBの意見が拮抗している。コンピュータの発達を歓迎する生徒ばかりではなく、それによって失われるものがあるという懸念を示す生徒も半分くらいの割合でいる。

◆ 利用者のほうが肯定的な意見をもつ

それでは、このような科学技術観は、実際に携帯電話やパソコンを使うことによって変わるのだろうか。この点を確認するために、表3-6-1で利用状況別に意識の違いを示した。

①インターネットと覚えること

この項目については、パソコンの利用状況による違いを示した。結果をみると、中学生、高校生ともに、パソコンの利用・非利用を問わず6割を超える生徒が「B」を選択している。パソコンを使ってもいなくても、「できるだけ覚えておいたほうがよい」と考えている生徒が多い。

②携帯電話とコミュニケーション力

この項目については、携帯電話を所有しているかどうかによる違いを示した。結果は、「携帯電話所有者」だと「A」を、「携帯電話非所有者」だと「B」を選択する割合が相対的に高い。実際に携帯電話を所有してやりとりをしている生徒は、「コミュニケーションの力を伸ばす」と実感する機会が増えるようである。

③コンピュータ発達の功罪

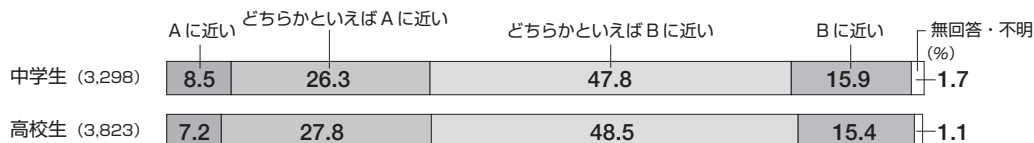
この項目については、パソコンの利用状況による違いを示した。表からは、「パソコン利用者」は「A」を、「パソコン非利用者」は「B」を選択する割合が相対的に高いことがわかる。ここでも、実際に利用している生徒のほうが「世の中がよくなる」と感じているのに対して、利用していない生徒は「失われるものが多い」と考えている。

項目によって多少の違いはあるものの、全体には実際に利用している生徒のほうが、そのメディアを肯定的にとらえる傾向があるようだ。使うことによって楽しさや便利さなどを感じるという側面と、否定的にとらえている生徒はそもそもそのメディアをあまり使おうとは思わないという側面の両方が関係しているのだろう。

図3-6-1 科学技術観（中・高校生）

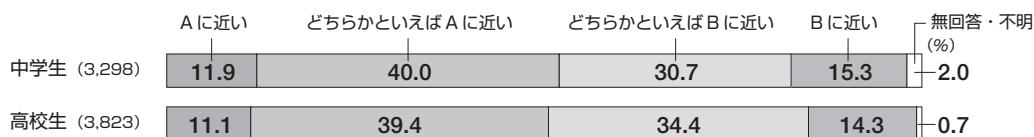
①インターネットと覚えること

- A. インターネットで調べられることは、無理に覚える必要はない
- B. インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい



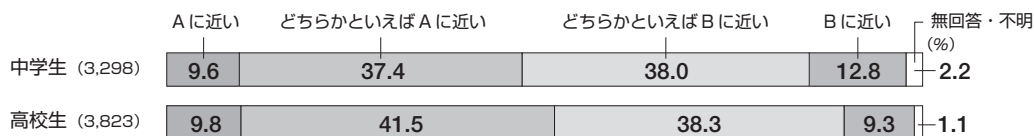
②携帯電話とコミュニケーション力

- A. 携帯電話はコミュニケーションの力を伸ばすと思う
- B. 携帯電話がコミュニケーションの力を伸ばすとは思わない



③コンピュータ発達の功罪

- A. コンピュータが発達すると、世の中がよくなる
- B. コンピュータが発達すると、失われるものが多い



注1) この設問は、中・高校生のみにとずねた。
 注2) () 内はサンプル数。

表3-6-1 科学技術観（中・高校生／パソコン利用別・携帯電話所有別）

①インターネットと覚えること

- A. インターネットで調べられることは、無理に覚える必要はない
 B. インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい

(%)

	中学生			高校生		
	パソコン利用者 (2,326)	パソコン非利用者 (793)	差 (利用者-非利用者)	パソコン利用者 (2,988)	パソコン非利用者 (715)	差 (利用者-非利用者)
Aに近い	7.4	10.6	-3.2	6.9	7.8	-0.9
どちらかといえばAに近い	26.6	24.6	2.0	28.6	24.3	4.3
どちらかといえばBに近い	49.5	46.2	3.3	48.3	52.2	-3.9
Bに近い	15.5	15.9	-0.4	15.3	14.7	0.6

②携帯電話とコミュニケーション力

- A. 携帯電話はコミュニケーションの力を伸ばすと思う
 B. 携帯電話がコミュニケーションの力を伸ばすとは思わない

(%)

	中学生			高校生		
	携帯電話所有者 (1,579)	携帯電話非所有者 (1,528)	差 (所有者-非所有者)	携帯電話所有者 (3,529)	携帯電話非所有者 (93)	差 (所有者-非所有者)
Aに近い	12.5	10.8	1.7	10.8	9.7	1.1
どちらかといえばAに近い	42.8	38.1	4.7	40.0	23.7	16.3
どちらかといえばBに近い	31.7	29.9	1.8	34.7	37.6	-2.9
Bに近い	11.7	19.0	-7.3	14.0	28.0	-14.0

③コンピュータ発達の功罪

- A. コンピュータが発達すると、世の中がよくなる
 B. コンピュータが発達すると、失われるものが多い

(%)

	中学生			高校生		
	パソコン利用者 (2,326)	パソコン非利用者 (793)	差 (利用者-非利用者)	パソコン利用者 (2,988)	パソコン非利用者 (715)	差 (利用者-非利用者)
Aに近い	9.9	7.7	2.2	10.2	7.7	2.5
どちらかといえばAに近い	38.9	34.0	4.9	42.9	35.7	7.2
どちらかといえばBに近い	37.4	40.5	-3.1	37.1	43.9	-6.8
Bに近い	12.2	14.2	-2.0	8.7	11.9	-3.2

注1) 「パソコン利用者」は「あなたの家にはパソコンがありますか」の設問に、「自分専用のパソコンがある」「家族と一緒に使うパソコンがある」と回答した人。「パソコン非利用者」は、同じ設問に「家にパソコンはあるが、自分は使わない」「家にパソコンはない」と回答した人。また、「携帯電話所有者」は「あなたは携帯電話を持っていますか」の設問に、「自分専用の携帯電話を持っている」「家族と一緒に使う携帯電話を持っている」と回答した人。「携帯電話非所有者」は、同じ設問に「携帯電話は持っていない」と回答した人。

注2) 差はポイント差を示す。

注3) この設問は、中・高校生のみにとすねた。

注4) 無回答・不明は省略した。

注5) () 内はサンプル数。